

大阪スマートシティパートナーズフォーラム プロジェクト キックオフイベント

OSAKA SMART CITY PARTNERS FORUM PROJECT KICKOFF EVENT PROJECT

第 1 回 プロジェクト コーディネーターオリエンテーション

2020 **11.6** Fri. 13:30 - 14:30

会場 大阪府庁

対象 プロジェクト コーディネーター

一般社団法人 重要生活機器
連携セキュリティ協議会

江川 将偉 氏

(G7(I7) 2017 イノベーター 日本代表)



20社以上の企業からお話を伺い、以下の企業がプロジェクト コーディネーター(PC)となりました。

スマートヘルスシティ

Deloitte.
デロイト トーマツ

高齢者にやさしいまちづくり

EY
Building a better
working world

Daigas
Group

HITACHI
Inspire the Next

 **関西電力**
power with heart

MS&AD 三井住友海上

子育てしやすいまちづくり

EY
Building a better
working world

NEC
NEC ネットエスアイ株式会社

 **Microsoft**

移動がスムーズなまちづくり

 **accenture**

docomo
NTT

DNP

Panasonic
BUSINESS


SOMPO
損保ジャパン
保険の先へ、進む。

インバウンド・観光の再生

Orchestrating a brighter world
NEC

TOPPAN

大阪ものづくり2.0

 **SoftBank**

PCには、大阪府から以下メンバーがサポートを行います。

※は大阪府担当

総括	大阪府／OSPF事務局／江川 将偉 氏（大阪府スマートシティ戦略スーパーアドバイザー） ※川口					
分野	スマート ヘルスシティ	高齢者にやさしい まちづくり	子育てしやすい まちづくり	移動がスムーズな まちづくり	インバウンド・ 観光の再生	大阪 ものづくり2.0
コーディネーター	 ※佐向 （副：狩野・大平）	     ※大平 （副：佐向・則木・奥村）	   ※金澤	     ※服部 （副：金澤・則木・和田）	   ※金澤 （副：佐向・服部）	 ※狩野 （副：則木）

役割

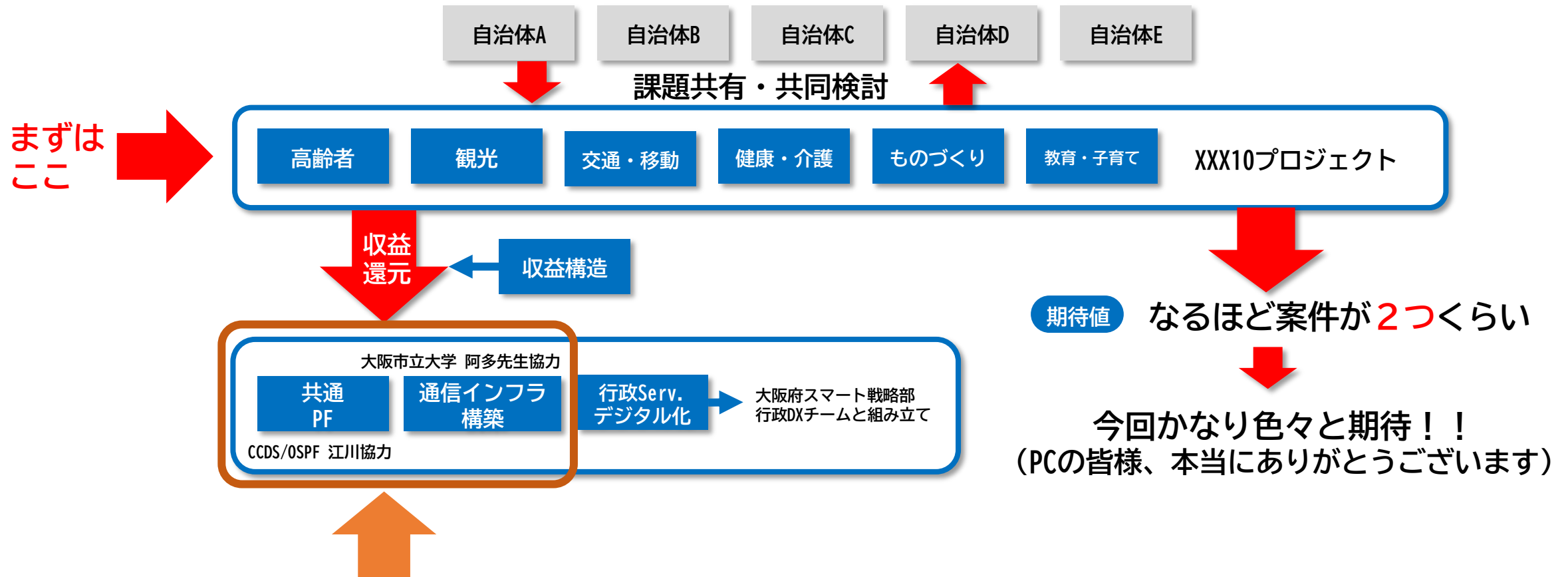
コーディネーター

市町村の地域・社会課題を解決し公民共同エコシステムを実現するため、会員企業の「ヒアリングシート」の内容を組み合わせ、市町村側のコスト負担を軽減しつつ、収益が還元されるサービス・ビジネスモデルを策定し、市町村への提案、実証をコーディネートする。

大阪府／OSPF事務局

各プロジェクトの進捗管理や対象フィールドとなる市町村、コーディネーターを支援する。

各PCとワーキンググループのアクティビティ



- ・ 公平・中立性を担保する為、大阪府立・市立大学参加
- ・ CCDSではガバナンス・監査体制、データ連携のガイドライン作成開始

課題をデータから整理する

第1回 市町村向けワークショップ：9月11日（金）開催

済

課題カテゴリ・数値から民間提案

10月中旬～11月中旬（随時受付）

ここ準備：PC設定

コーディネート：公民共同&実証実験

11月中旬 提案会～12月中旬 コーディネート～実証段取り

費用検討：共通化・民間運用・行政運用

12月中旬～2月中旬 費用検証会

サービス収益を自治体へ還元する方法検討

12月中旬～2月中旬 実地検証

成果共有・コーディネート

2→3月中旬 成果報告会&コーディネートイベント

課題の拡大化・地域の拡大化

3月中 ビジネス化検証準備&不足サービスの連携相談

社会実装

4月中～8月 社会実装しながら実際の検証&概算要求検討

プロジェクト コーディネーター 決定

各社提案の読み込み&企業マッチング

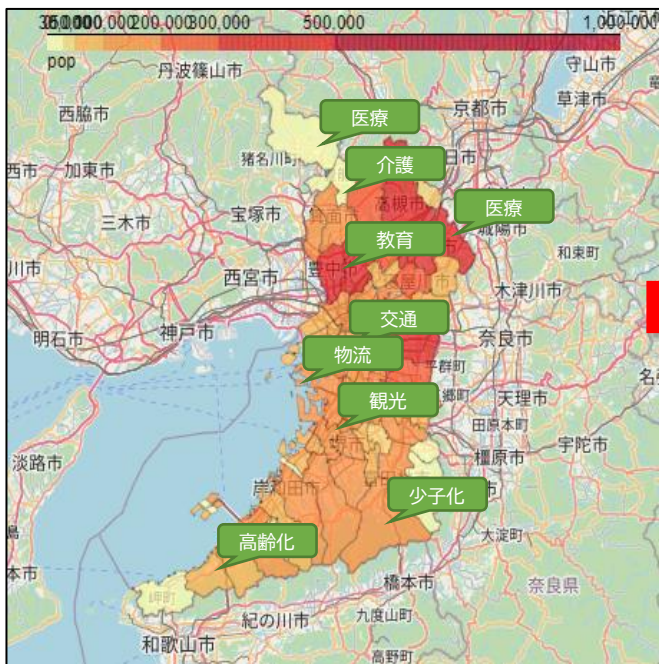
自治体との相談会（双方の相性確認）
・PCからのオファー
・自治体からのオファー
カテゴリごとの概念発表会を検討

OSPF&自治体&PCでグランドデザイン検討
・課題 ・サービス
・エコシステム ・マネタイズ など

Phase 1

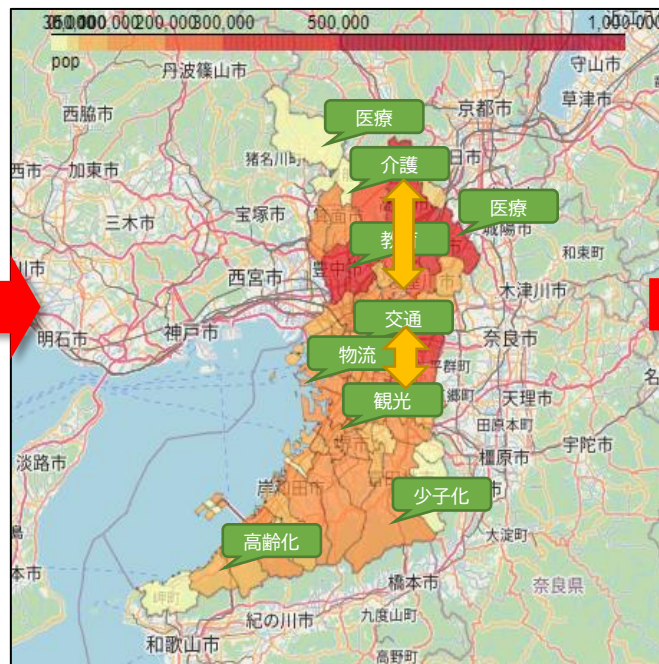
Phase 1-2

各課題カテゴリーのWG検討
11月・12月・1月
（途中経過でもOK）



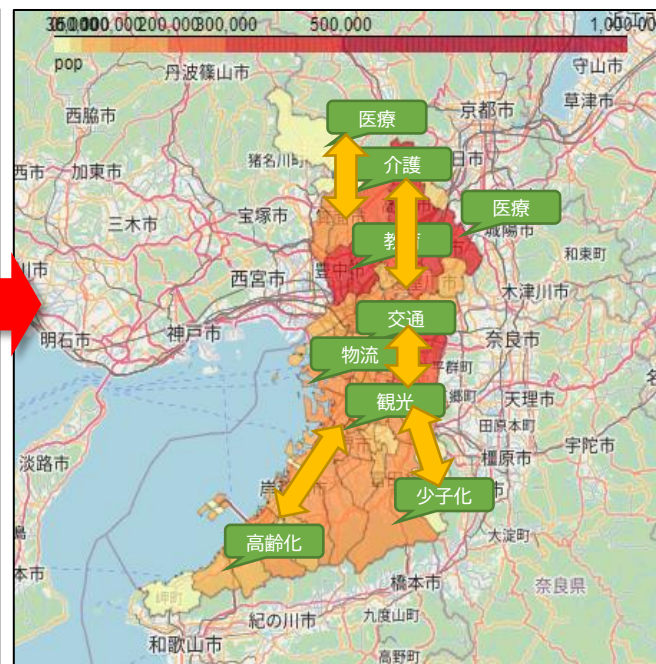
Phase1

自治体と課題と政策を解決



Phase2

地域の拡大と課題の連携



Phase3

共創社会（競合同士も共創）
全自治体の課題エコシステム

じっくり検討

日本の各自治体





1. 自治体の要望は変わる可能性があります。



2. コストの在り方は、基本自治体の負担にならない事
(自治体依存部分は明確に分類し予算を検討)



3. 難しいカタカナは使わない。高齢者でも分かる言葉に置き換えてください。



4. グランドデザイン

- ・ 課題に対するサービス（できる限り可視化：ステークH. MAP）
- ・ エコシステム（座組）・マネタイズ
- ・ 実行する為の課題（なくてもOK）
- ・ スケジュール
- ・ 将来展望

3月までのグラウンドデザインに向けて

実際に動かしてみた例

豊能町

35 大阪府豊能町(3世代が繋がる町)

(1)解決したい課題分野

☐ 全体設計・コンサル・アーキテクト ☐ まちづくり総合 ☐ 少子化 ☐ 高齢化 ☐ 交通・移動 ☐ 医療・介護 ☐ エネルギー・資源
☐ 支払い・金融 ☐ 防災 ☐ 防犯 ☐ 物流 ☐ 行政 ☐ 教育 ☐ 観光 ☐ データ基盤連携 ☐ 通信網等 ☐ 土地・インフラ整備 ☐ センサー(埋没インフラ等) ☐ その他

(2)解決したい課題

- A. 急速に進む人口流出と少子高齢化
- ・2020年(7月末)は19,174人の人口が2045年には8,612人になる。
 - ・人口流出と共に少子高齢化も進み、2045年には町内のおよそ2人に1人が高齢者になる。
- B. 町民の主な交通手段が自動車
- ・公共交通での移動が不便である。

(3)課題解決のための糸口

- A. 子育て世代が住みやすいまちづくり
- ・スマホアプリなどで簡単に乗車予約が出来るオンデマンド交通。
 - ・公共施設の再配置による遠隔教育、位置情報サービスを利用し、子どもがストレスフリーに学び、遊べる場所づくり。
- A. B 高齢者が安全・安心に暮らせるまちづくり
- ・ドローンや自動運転車を用いた配送サービス。
 - ・健康診断データの収集、疾病リスクの予測。
 - ・高齢者と子どもがコミュニケーションが取れる公共福祉施設の開発。
- 子ども・父母・祖父母の3世代が快適に暮らせる町。

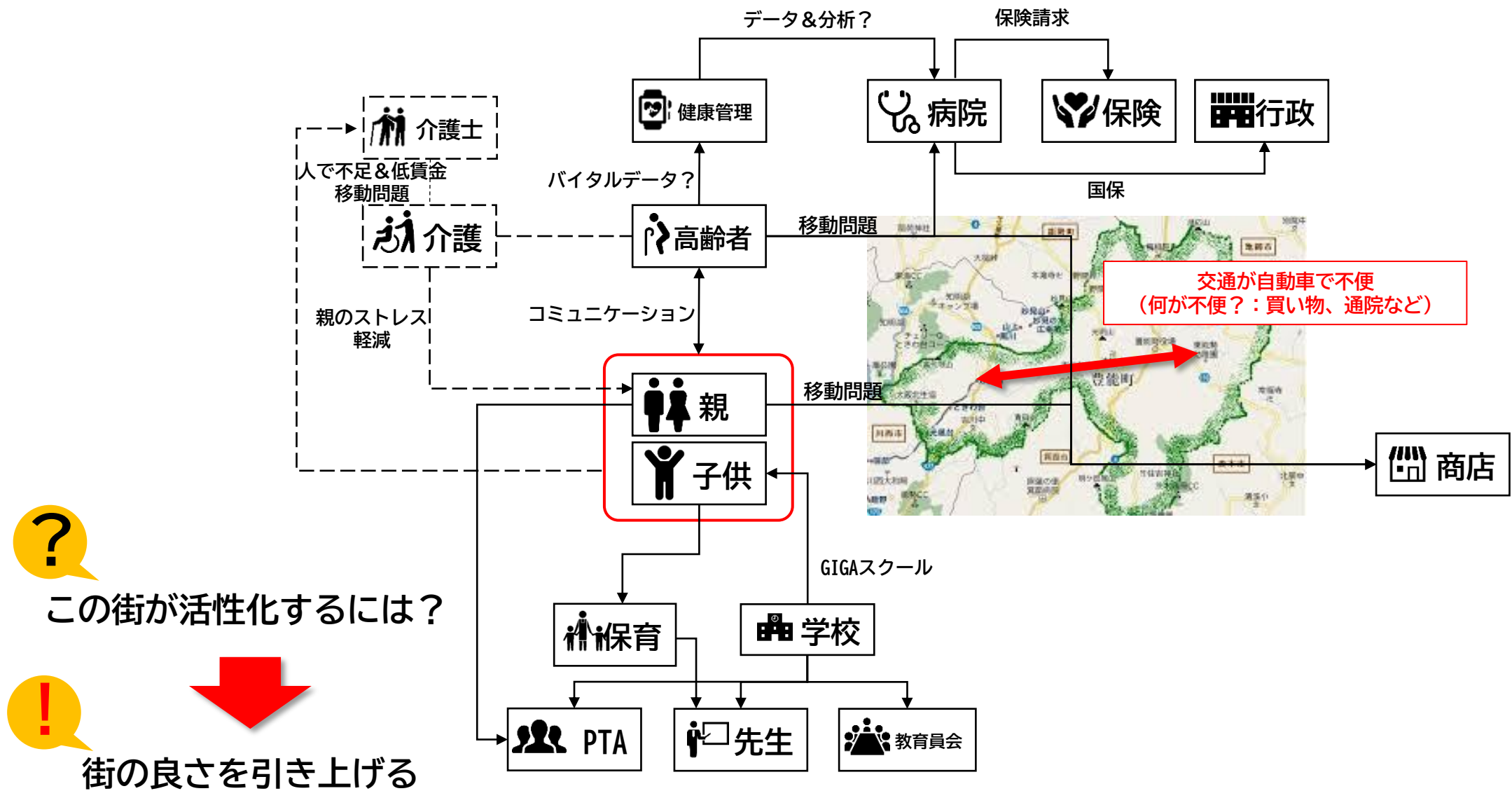
(4)関連するデータ

○年齢別人口分布 ○保育所・認定こども園数(2か所)
 ○町内3駅1日乗降客数(6,670人) ○学校数(小学校：4校、中学校：2校)
 ○1人あたりの自家用車保有台数(0.52台/人) ○公共施設数 …etc.



(4)実証する予算

☐ 本年度予算あり (円) ☐ 予算無し。民間での運用検討依頼 ☐ 民間と今後予算検討可能



豊能町

～日本の課題、高齢過疎化からの脱却PJ～

基本目標（仮定：自治体の課題を読みながら考える）

豊能町の進む高齢化と人口減少を軽減させるため、人口流入による地域の活性化
活性化による高齢者の支援を基本します。また豊能町の最大を強みを生かした街づくりを考えます。

豊能町の最大の強み

1. 自然の豊かさ 町の9割が「緑」
2. 大阪市街地からのアクセスの良さ。大阪駅から妙見口60分（東京で言う八王子高尾さん観光）
3. 高齢者が元気（農家も多い。ワインも作ってる）

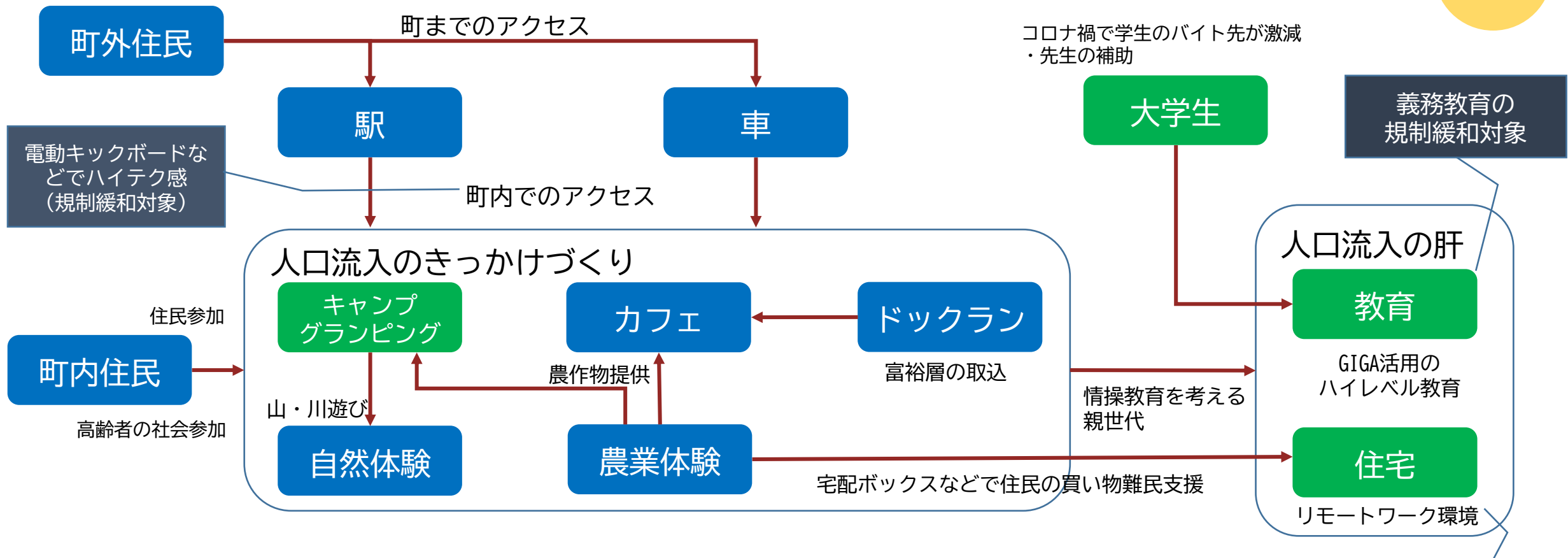
豊能町の弱み

1. 人口流出 若者世代が町外に流出
2. 町の強みが見え辛い
3. 町内の移動手段

コロナ禍で、個人の趣味嗜好の変化を捉える！
キャンプ・グランピングでの自然との遊びやリモートワークでの働き方改革を活用！

人口流入のきっかけづくり（ブレスト）

- ・ 教育をリモートコンテンツなど含めてハイテク化し、教育水準の底上げ。
（町全体にネットワークは課題。子育て世代の流入を狙う）
- ・ 大学生（阪大、市大、近大など参加模索）による、チューターを入れ先生の補助
- ・ 親世代が豊能町で働けるリモートワーク環境の整備
- ・ 親世代が豊能町を訪れるきっかけづくり
 - ① キャンピング・グランピングなどの低コストでできる体験型施設
 - ② 整備されたドックランなどでの富裕層来訪獲得
 - ③ レジャーリゾートなど犬と過ごせるホテルなど検討（千葉のホテルが参考）
- ・ 遊びとして、町内移動は電動キックボードで若者世代の楽しみを作る
- ・ 買い物難民にはエストニアのクレベロン（宅配ボックスシステム）など高齢対策も組み込む
- ・ 地域活性化（高齢化）
 - 農業体験、トレッキング案内（山案内）、農作物のキャンプやカフェへの提供、町内の清掃
 - 健康な高齢者の社会活動参加も入れ、既存住民も楽しめる環境づくり



コロナで自然遊びを求める家庭の多くは子連れ。子連れは教育にも関心。
 ハイテク教育と自然は少し魅力。住環境が整うなら引越しも検討。
 住環境はリモートワークで魅力を出す。
 リモートワーカーは基本IT企業で、業界的には少し給与が高い。

住民への
高速ネットワーク
無償開放

キャンプ
グランピング

キャンプ・グランピングは低予算で始められる施設です。
関東圏ではグランピングや手ぶらBBQが流行り。
Snow Peaksなど大手も手掛けていて、慣れた企業が多い。

教育

日本の財産は子供で教育は非常に重要。今までの習慣で教育委員会の壁があり
なかなかデジタル化が進まない。豊能町は生徒数が少なく教育委員会と検討重要。
デジタル反対理由の多くは「先生がPC使えない（仕事が増える）」「ネットワーク環境
が安定しない」「コンテンツがない」の3点です。

（おまけ、子供が不適切なネットへのアクセス懸念）
PCの利用は最低限覚えるとして、難しい作業を取り除く事と先生の仕事が軽減される事
が重要。
PCの利用は大学生のバイトで先生の補助。教育は動画コンテンツをベース（先生の勉強
時間や能力により偏りを補助）、子供の習熟度の差は大学生のチューターバイトで補助。
先生は、子供のメンタルや社会性を中心に指導を切り替えると、みんながWin-Winに。

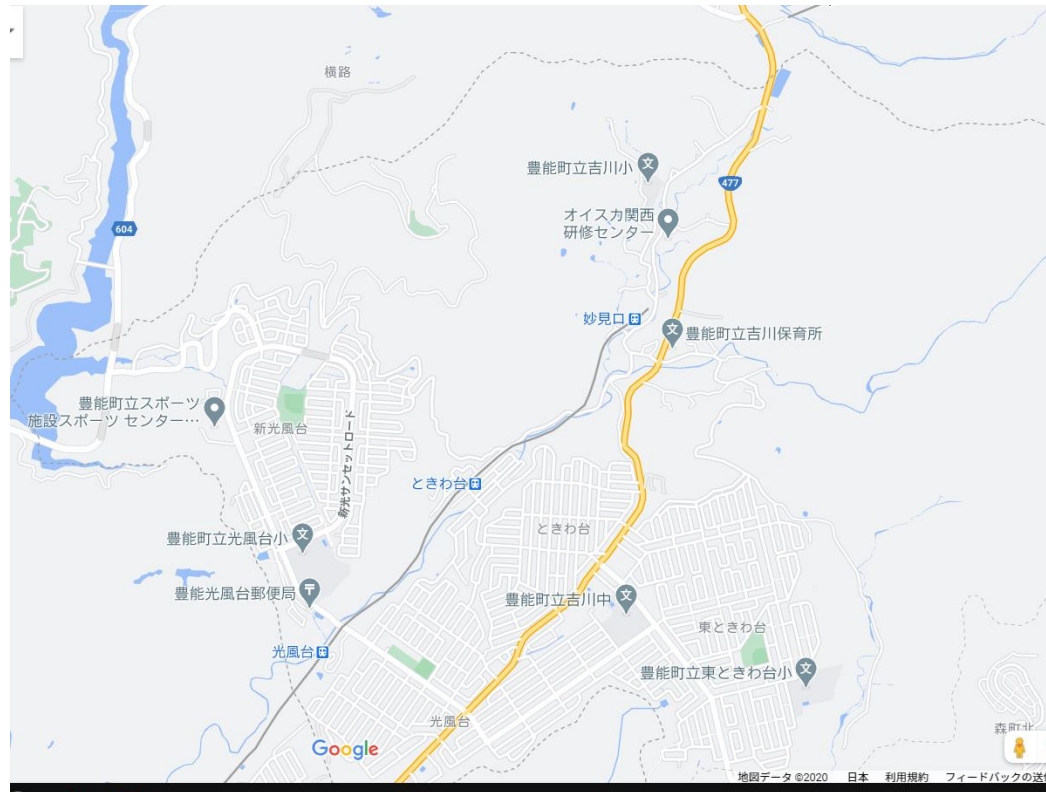
住宅

キャンプなどで遊びに来た家族が、教育も進んでいる話も聞き、ネットワーク環境や
住環境が整っていれば、住んでみたいと言うモチベーションも増える。
最近の若者家庭では近所づきあいを嫌う傾向もあるので、既存住民との接点の取り方は
重要ですが、農業体験やカフェなどで接点があれば比較的軽減される可能性が高い。

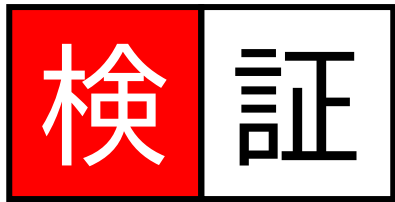
役割	企業等	内容
コーディネーター	EY新日本監査法人(OSPF/江川)	日立、三菱のファイナンス能力やネットワークをコアとして全体の統括を行う。 (可能ならブランディング/メディア対応も)
キャンプ・グランピング & ファイナンス	日立キャピタルorりそな銀行	EY、日立キャピタルのネットワークでSnowPeaksやその他、良い事業者を誘う。
教育パート	エドテク/エストニア eKoolなど	教育のITシステムおよび教育コンテンツなどの段取り。
大学生アレンジ	検討	OSPFから各大学への呼びかけ。大学生WGの一環。教育支援のチューターや先生の支援
住宅	日立キャピタル	住宅のサブスクリプション(月額払い)の新しい住み方。 (日立CapのLife as a Seriveを参照ください。) 家事代行やカーシェアなど多岐にサービスを提供する事を考えてます。
ネットワーク環境	日立キャピタル・NECネット・OZ1	基本Life as a Seriveの一環。構築はMI・NECネット社が検討可能。 データ連携基盤はJP-Linkを豊能町に無償で提供(豊能町で常に活動状況がトラッキング)

光風台～妙見口

電車で来れる点と住宅がある程度整っている。駅を降りてからの足の確保は重要
キャンプ帰りに学校が見える点では吉川小、光風台小をベースがよい。



ビジネスが回り始めたら、他の地域にも展開を考えていく。特に交通手段をどのように確保するかがポイント



豊能町とのMeeting(2020.10.23)
を経て

町の状況説明

西地区は、寝に帰る環境でOKだった

町民の壁：団体が育っていない→気持ちをまとめる組織がない。自治会加入率が高いが減り始めている
東地区は、農村で農作してたら、基本満足。東は人の受け入れを積極的にしたくない。
町外住民のマナーが必要。地域との共生

法律：市街化調整区域（少し緩和した）農業も守らないとダメ。という意識がある。（府の都市計画と調整）
希望ヶ丘も少しリモートワークで住民が増えてきた。

未活用の空き家問題

- ・空き家があるが、流通していない。700件くらいあるが手放さない。
- ・親の実家として、保有してたい。（親の遺品などあるため）
- ・西には都市計画税がなく、固定資産税のみ。（5-6万円/年）

空地活用

- ・72ヘクタールの戸知山がある。過去研修施設として作る予定が、16年前に頓挫して町に寄贈（上下水道がない。井戸や下水）

妙見口駅（サイクリングもあった）

- ・国道など公道の規制緩和が必要になる可能性が高い

ドッグランは近所の散歩（ワンちゃんと一緒に避難できる場所が必要と感じる）

子育て・交流

(仮)OSPF
産官学民交流センター

小中一貫校
e-school



オンデマンド交通活用
大阪市へのバス改善（箕面市連携）

関係人口増

オンデマンド交通

レジャー系
キャンプ／グランピング／
スマートキャンプ

敷地内移動
電動XX／オンデマンド管理

ネットワーク環境
無料高速WiFi

再エネ
自家発電

農業体験
IoT管理

豊能町吉川小中一貫校設立（吉川中に集約）

教 育 全 体：エストニアのeKoolを活用し、みんなが子育てに参加する環境を構築
（エストニアはEU統一テストで常にNo.1）

教育コンテンツ：オンラインコンテンツの拡充

- ①YouTubeなど使い教育（教え方）を競争原理にさらし、子供たちの分かりやすさを重視
- ②先生の教える作業を軽減します。

生徒・先生支援：大学生の活用を行うことで、先生の作業の軽減、生徒の学ぶ時間をケア
（大阪府・市立大学参加確認済み）

国 際 交 流：エストニアとの学生交流の場を作ります。

- ①エストニアも小中高一貫校が多く、日本にも興味を持つ学生も多く居ます。
- ②オンラインで学生達を結ぶ事で、語学や文化の交流を促します。
- ③エストニアでは小学生からプログラムを行うので、日本のIT人材育成にも役立ちます。
（大学生がチューターで入ることで、日本の大学生にも良い刺激になります）

★エストニアの授業を日本でも取り込めないか？（プログラミングなど）

GIGAスクールの機材を最大限に使い、日本の教育を「夢を語れる豊かな人材育成に」

豊能町吉川小学校（廃校利用）

OSPF産官学民交流センター

【大阪府立大学・私立大学の教授の研究の場】

- ・自然豊かな場で気持ちをリフレッシュして、研究内容を見直したり瞑想する場
- ・企業との意見交換しブレストする場 など

【リモートワーカーのインキュベーションオフィス(交流の場)】

- ・大学の教授たちとも気軽に交流も可能(一緒にBBQも)

【企業のオフィス利用(山形県の熱中小学校みたいな感じ)】

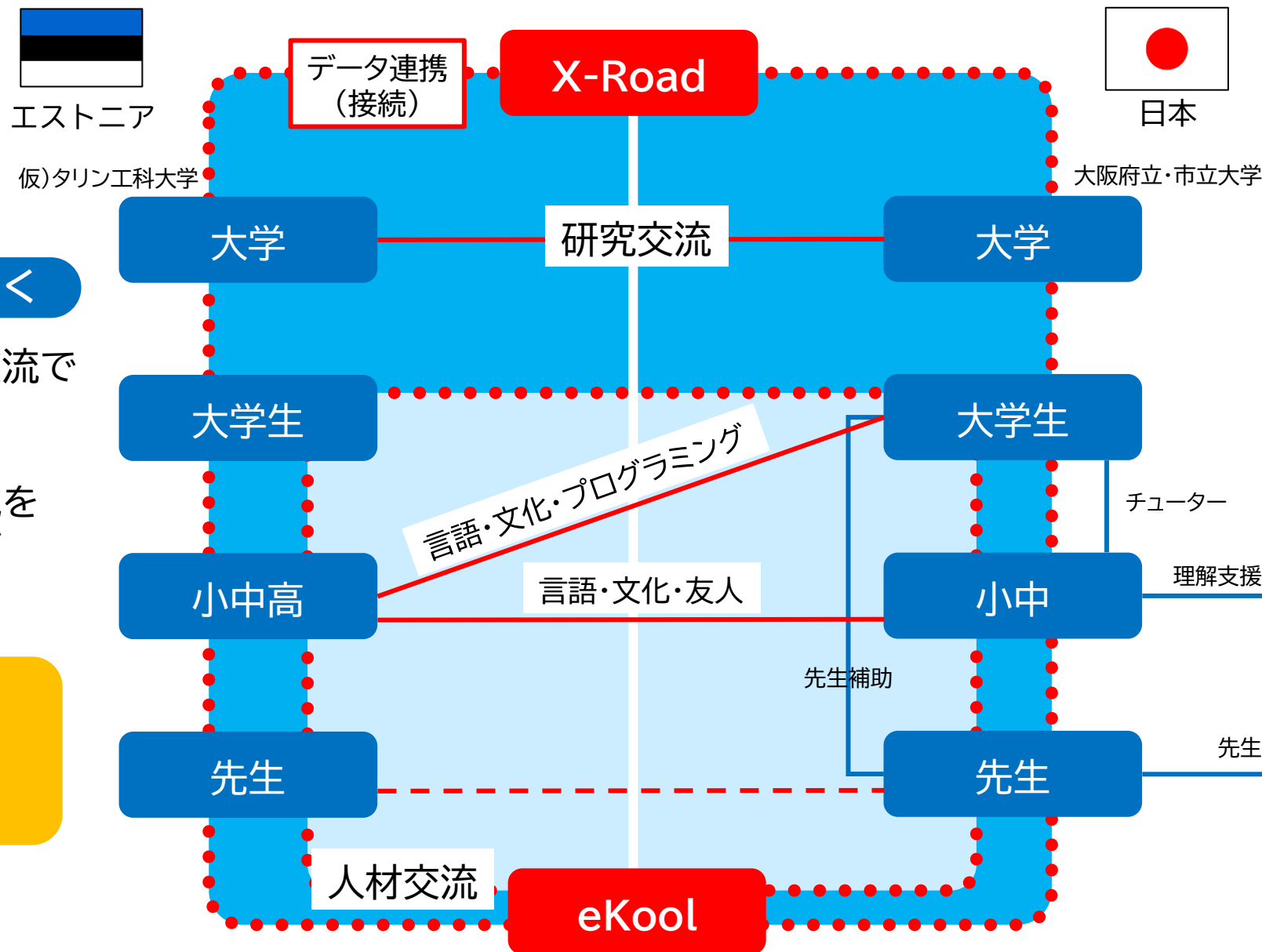
- ・一部ベンチャーなどのオフィスとしても貸し出し

【地元住民との交流の場】

- ・スマートシティで実験中のテクノロジーやコンセプトなど触って意見交換
- ・子供たちの学びの場
- ・一緒にBBQなどイベントで交流

【エストニアや北欧との文化交流】

- ・エストニアや北欧の自然豊かな遊びや文化なども感じられる場(エストニアはITだけじゃない)



教育をもっと面白く

各レイヤーでの海外交流で
楽しく学ぶ場を構築

日本でもIT人材の育成を
エストニアからも学ぶ

内閣府
戦略特区として
参加

72ヘクタールの土地の活用方法を検討

- ・ キャンプ、グランピング、リモートワークなどの最近の流れを取り込む
- ・ 電動モビリティなど活用して、遊び感覚や混雑緩和など
- ・ エストニアや北欧の文化も取り込み、コンセプトあるフィールド作り
- ・ 近所の送電線の活用で再エネなども検討

EY提案
有り



EY
ブランディング
検討

北O（北欧）、北O-saka、北欧坂、北大阪・・・

北欧エストニアやフィンランドなど森林豊かな国で社会保障もしっかりしている国と連携しながら、自然とスマートシティの 融和を目指す。

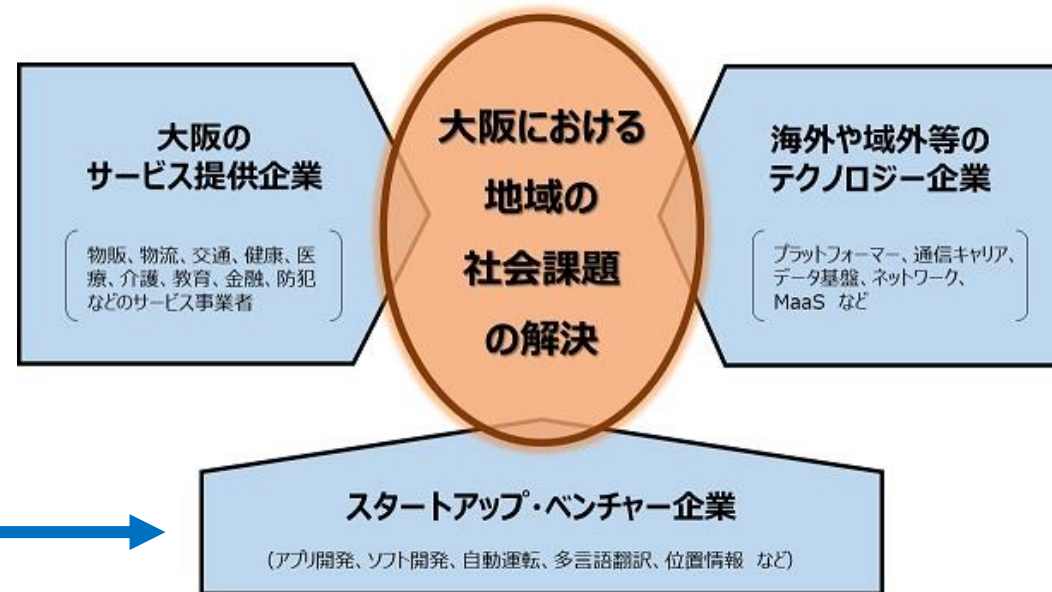
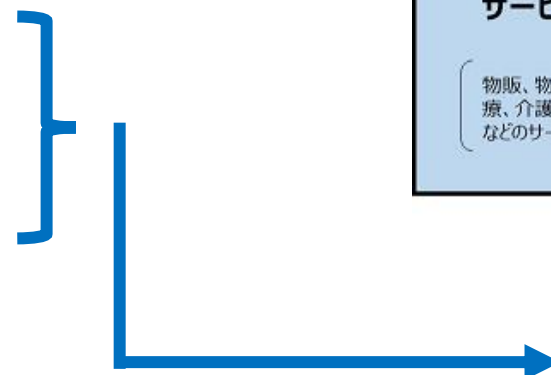
- ・実際に色々な文化交流（まずはIT先進国エストニア）
- ・自然体験も北欧風
- ・教育/学生も同年代同士マッチングして交流（英語やITプログラミングにも興味）

リトルエストニア

130万人のエストニアより少ない人口がこれから、エストニアにならいIT先進自治体を目指す

大阪経済活性化プロジェクト

1. 大學生活用
2. ベンチャー育成
3. 各ワーキング



1. OSPFにおける大学・学生活用

大学生もプロジェクトに参加し事業の手足となり支援。そこから事業の成り立ちを経験（起業家育成）

2. ベンチャー育成プログラム

大阪ユニコーン企業を誘致・育成。OSPFの環境を活用し新しい事業が生まれ大阪経済が豊かになる好循環を作る取組

ユニコーン企業：「創業10年以内」「評価額10億ドル以上」「未上場」「テクノロジー企業」といった4つの条件を兼ね備えた企業を指す。

OSAKA SMART CITY PARTNERS FORUM

大阪スマートシティパートナーズフォーラム
 PROJECT プロジェクト インターンシップ

PROJECT INTERNSHIP

あなたもプロジェクトに参加してみませんか？

「プロジェクト・インターンシップ生の募集(予定)」について

学生のみなさまも、大阪スマートシティパートナーズフォーラムが
 公民共同で進めるプロジェクトにインターンシップ生として参加し
 ていただける予定です。



Experience

プロジェクトを通じて、
 自治体職員や企業社
 員など、様々な人と交
 流でき、自分自身の視
 野が広がり貴重な経験
 となります。



Work

プロジェクトから生ま
 れた新たな住民サービ
 スを支えるメンバーと
 して仕事体験ができ、
 やりたいことの発見に
 繋がります。



Learn

インターンシップを通
 じて、大阪府の地域・
 社会が抱える課題や、
 スマートシティを実現
 するサービスやテクノ
 ロジーを学ぶことがで
 きます。

	10月		11月		12月		1月		2月		3月	
プロジェクト	◆プロジェクトリーダーの決定		◆提案会・コーディネート		◆費用検証会・実地検証				◆報告会			
インターンシップ			◆インターンシップ生募集		◆インターンシップ生決定							

基礎となるデータプラットフォーム・データ連携・ユーザーIFと産業分野別データ連携の検討

データ連携の課題

都市OSが今後定義されるが、フルスタックで揃うのは数年先になる。
それまでにサービスがスタートする為、最低限押さえておくプラットフォームとそれを運用オペレーションを行う為のルールを検討していきます。
(現在CCDS動き始めております。CCDSは一般社団の非営利団体です。参加者募集)

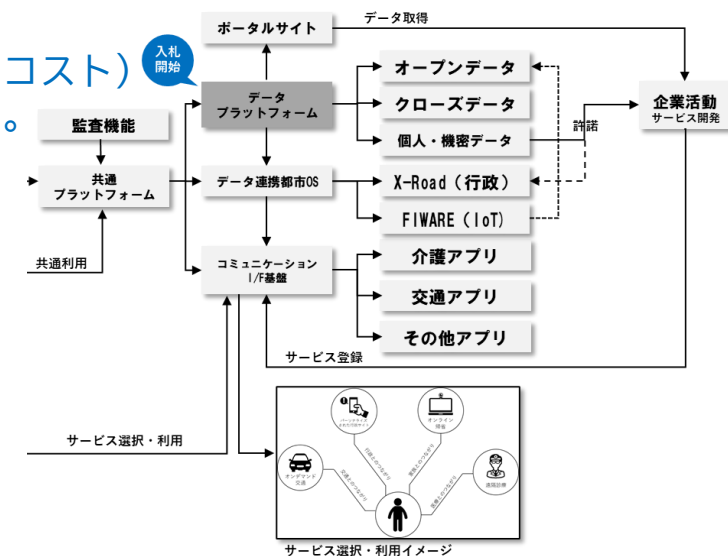
データ連携基盤・産業分野別データ連携基盤・住民ID・ID管理・ユーザーI/Fなどの検討

プラットフォームの在り方

- ・ 中立性：多くの企業が色々なデータ連携基盤を有している。競合のデータ連携は使いたくない。
- ・ 公平性：ベンチャーなども参画できるように簡単に。各APIを作り続ける事のない仕組み。
- ・ 利便性：既存システムを改版する事を極限におさえる
- ・ 運用コスト：ランニングコストが非常にかかるものが多い（データを集中して集めた場合のクラウドコスト）

新しいデータ連携は運用含めてこれからのものが多く、非機能の運用コストが読めない。

- ・安全面：オペレーションがこれからになり、抜けがでると個人情報を流出するリスクを伴う。
- ・セキュリティ：通信の改ざん・なりすまし防止など
- ・個人情報：個人と繋いだ場合のデータ利用許諾の仕組み



スマートシティに必要なネットワークインフラをサービスの動きに合わせて構築検討

大阪全域にネットワークインフラを準備する為のワーキング

プロジェクトリーダーのサービス概要を把握しながら、対応地域における通信環境などを調査

ネットワークが不足しているエリアなど、確認し対策を検討

対策にかかる費用を府市町村・プロジェクトリーダーと相談

行政デジタル化を検討

大阪府および43自治体のデジタル化を検討するワーキング

大阪府と府/市町村の業務棚卸

棚卸内容から各企業からの提案を整理・不足内容の整理

全体のコスト、運用などの調整

各企業とマイルストーン調整、自治体導入計画検討
(導入マニュアルや共通運用マニュアルなども合わせて検討)

GovTech大阪と共同

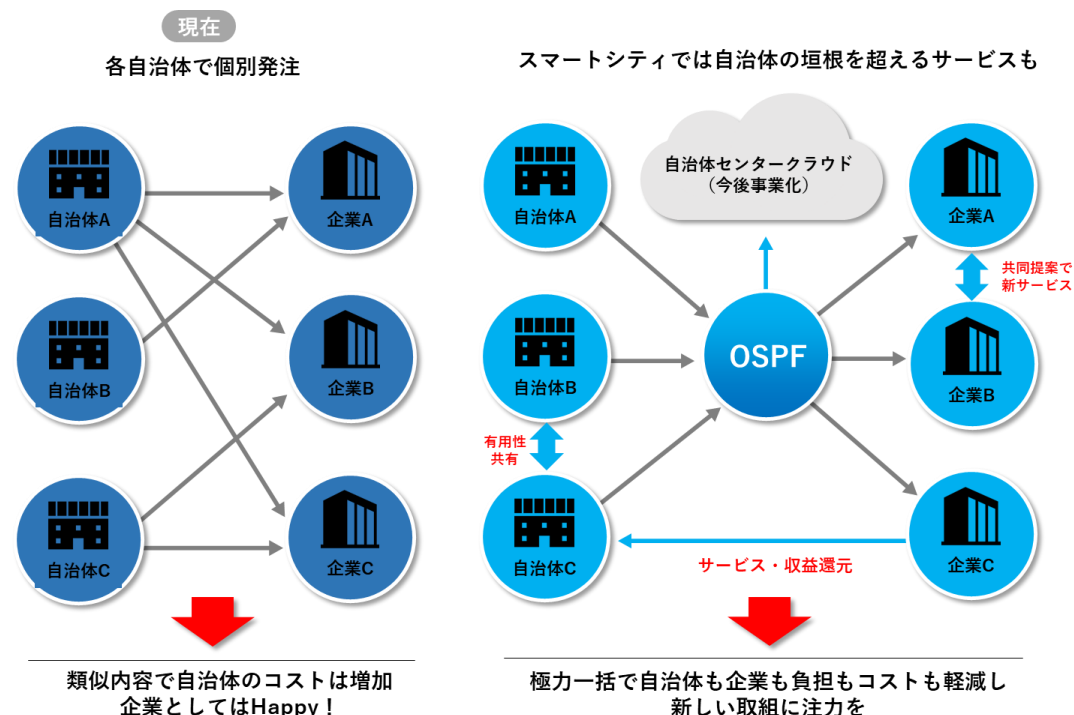
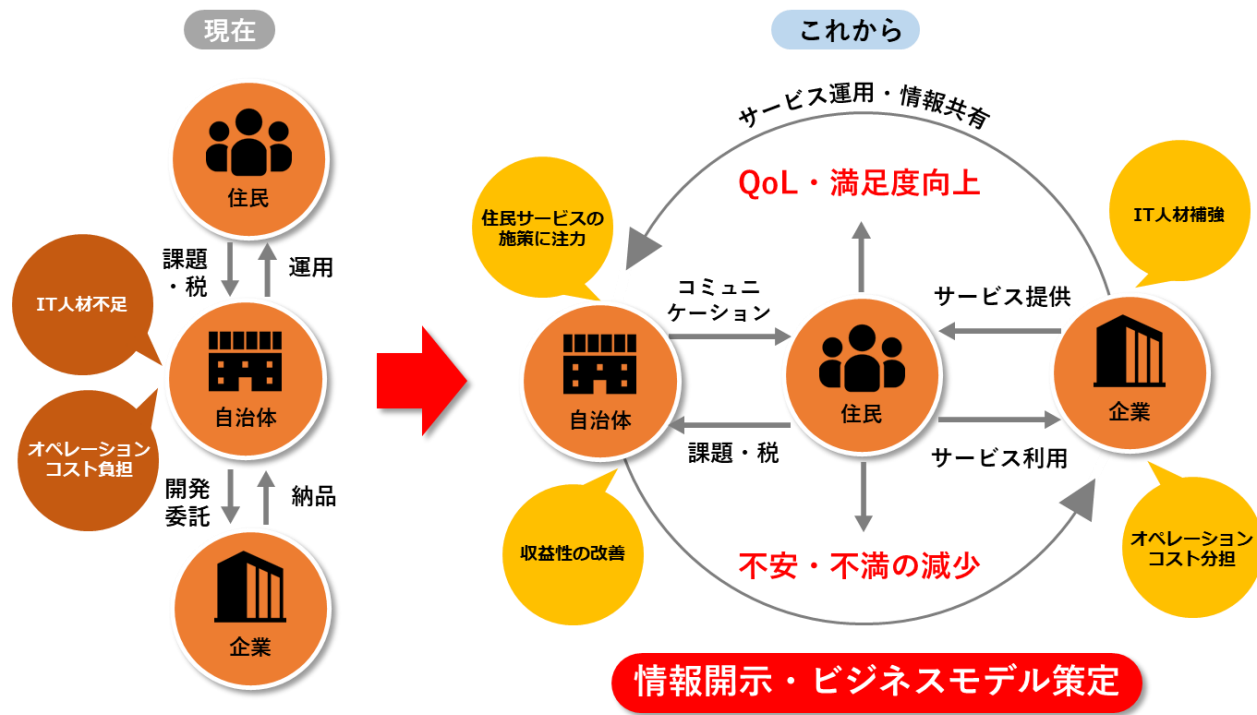


スマートシティにサービスの動きに合わせて収益構造やエコシステムの在り方を検討

金融関連・コンサルティング会社などで構成を予定

各サービスの収益モデルの在り方をアドバイスできる環境

スマートシティにおける収益構造を構築
広域行政（大阪府）だからこそできる、各自治体との連携



大阪スマートシティパートナーズフォーラム プロジェクト キックオフイベント

OSAKA SMART CITY PARTNERS FORUM PROJECT KICKOFF EVENT



OSAKA Smart City Partners Forum
PROJECT

第 1 回 プロジェクト コーディネーターオリエンテーション



【講師】
江川 将偉 氏

講師プロフィール

- 氏名 江川 将偉（えがわ しょうい）
- 出身 大阪府
- 所属 一般社団法人 重要生活機器連携セキュリティ協議会
ストラテジックアドバイザー
大阪府スマートシティ戦略部 スーパーアドバイザー
エストニア日本商工会 理事